

授業概要

科目名	運動障害性構音障害 I				授業の種類	演習	講師名					
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年	前期
【授業の目的・ねらい】 運動障害性構音障害の特徴、分類、評価法及び訓練計画と訓練方法の技術を習得する												
【実務者経験】 言語聴覚士として石川病院で幅広いステージの患者様のリハビリに従事。												
【授業全体の内容の概要】 運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患メカニズムおよびその特徴について理解できる												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動障害性構音障害の概要を把握し、臨床場面で適切かつ必要な検査・評価の選定および実施するための基礎を習得する。 体験実習において症例の観察と記述が行える。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	運動障害性構音障害の基礎知識を習得し、運動系（錐体路）の理解を深める											
2	運動系（錐体外路・小脳）の基礎理解、運動系の障害の理解（錐体路）											
3	運動系の障害の理解（錐体外路・小脳）、発話特徴の概要を捉える											
4	GRBASの理解、タイプ分類ごとの病態特徴・重症度を理解する											
5	タイプ分類（UUMN, 混合性）、タイプ分類まとめプリント実施、AMSD概要											
6	運動障害性構音障害の基本的な評価および検査を理解する（AMSD）											
7	運動障害性構音障害の基本的な評価および検査が実施できる（AMSD/SLTA-ST）											
8	各種所見、検査結果のまとめ方、ICFの考え方											
9	症例動画を元に検査結果の記載											
10	呼吸機能へのアプローチ方法											
11	発声機能へのアプローチ方法、補装的アプローチ方法											
12	口腔構音機能へのアプローチ方法①											
13	口腔構音機能へのアプローチ方法②											
14	口腔構音機能へのアプローチ方法③											
15	拡大・代替コミュニケーションアプローチ											
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリア標準テキスト												
【準備学習・時間外学習】												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。												